

学習内容報告書 フォーマット

学校名	福島県南会津郡只見町立朝日小学校
授業者	荒井 久徳

1. 単元計画

1-1. 単元名

只見町の未来を考えよう

1-2. 学年

第6学年

1-3. 教科

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

本単元は、自分たちの住む只見町の良さや課題を知り、自分たちにできることを考え、提案することを通して、持続可能な只見町の発展について考えることがねらいである。

子供たちは、地域の様々な人たちに取材をしたり、調べたことをもとに自分たちで話し合ったりすることで、只見町の良さや課題について深く考えることができるものとする。さらに、山、川、海は地球規模の水循環で繋がっていることをもとに、只見町と海の視点について触れたり、海辺の地域について取材したりすることを通して、海と只見町の繋がりや海の良さを実感することができることを考える。

またそれぞれのテーマでの話し合いを通して、「開発と自然保護」という只見町の本質的な課題にもアプローチすることもできる単元である。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

○単元のねらい

- ・環境問題や海洋の問題の解決が、只見の環境を守ることに繋がっていくことに気付くことができる。
- ・持続可能な只見町にするために、町の豊かさを支えている観光や産業との関係に目を向け、その課題を知り、自分たちにできることを考え行動することができる。

○単元設定の理由

(1)児童観

昨年度、子供たちは只見町の食料生産について調べ、豊かな自然や気候が只見の農産物を支えていることを学んだ。また只見町の郷土料理についても調べ、材料の一部は日本海から来ていることを学び、自分たちの住む地域と海は関係があることに気付くことができた。また記録的な雪不足を経験し、スキー学習や雪遊びをすることができず、子供たちは只見町にも自然環境の変化が起きていることを実感している。

子供たちに実施したアンケートでは、「只見町が好きである」と全員が答えている。その理由として、「自然が豊かだから」「人が優しいから」「動物・植物が多いから」があげられていた。また、「将来も只見町に住みたい」と全員が答えており、ほとんどの子供が「将来、只見町に貢献したい」と答えていることから、未来の只見町について考える意欲のある学級であると言える。

子供たちは真剣に学習に取り組むことができる反面、自分の考えを堂々と発表することに抵抗をもつ子供が多い。そのため、一部の子供の考えに依存し、授業が進んでしまうことがある。そこで、自らが只見町や海辺の地域に住む方々の考えを聞いたり、質問したりする活動や、自分たちだけで議論を進める活動を仕組み、主体的に学びに向かえる体験を積み重ねている。

(2)指導観

本単元では、只見町や海辺の地域の現状を調査する際、地域の人たちの工夫や思いを実感させるため、子供たちに直接取材をさせていく。また取材の目的を明確にし、視点をはっきりさせることで、追加で質問できるようにし、深い気付きをもたせていきたい。最終的には、自分たちが考えた只見町の未来についての提案を多くの人に伝えたり、町役場の方に聞いていただいたり、提案内容について具体的に行動したりすることで、社会への参画意識や未来の只見を支える担い手としての自覚を醸成させていきたい。

また、「開発と自然保護」という葛藤の中で、未来の只見町について真剣に考えていくことができるように、追究・探求の時間を確保し、只見町の将来的な発展のために自分たちが提案できることを考えさせたい。そして「自分に自信を持ち、家族や学校、地域に誇りを持ち、夢や目標に向かって学び続ける意欲」である只見愛を育てていきたい。

本時で子供たちが自分の考えをもち、話し合いをする際にも、「開発と自然保護」という視点で議論させることにより、深い気付きを導いていきたい。その際、子供たち同士で議論・補完・修正できるように、教師が子供に考えを問い返したり、話し合いを整理したりしてコーディネートしたい。これにより、友達との考えの良さや新たな視点に気付かせ、より深い考えをもつことができるようにしていきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<イノベーション力>

これまでの話し合いをもとに、只見町の未来について考えたことを伝え合ったり、話し合ったりする活動を通して、自分の考えを深めるなど、思考力・判断力・表現力等を育成したい。

1-7. 単元の展開（全46時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ～ 2	○ 自分たちが考える只見町の良いところと課題について話し合う。 ・只見町の良いところと課題について話し合う。 ・学習計画を立てる。	只見町の良いところと課題について話し合うことができる。（思考力・判断力・表現力等） 追究する課題を解決するために学習の計画を立てることができる。（学びに向かう力・人間性等）
3 ～ 12	○ 只見町の良いところと抱える課題について調べる。 ・只見町の現状を調査するための質問を考える。 ・只見町の現状を調査する。 ・只見町の現状を調査して分かったことを共有する。	調べたいことを整理し、只見町で働く人に質問をすることができる。（学びに向かう力・人間性等） 調べて分かったことをもとに話し合うことができる。（思考力・判断力・表現力等）

13 ～ 17	<p>○ 海と川、山は繋がっていることを思い出し、海辺の地域の良いところと抱える課題について調べる。(海洋交流学习)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺の地域で調べたいことを考える。 ・海辺の地域を調査するための質問を考える。 ・海辺の地域を調査する。 	<p>川と海の共通点・相違点を話し合うことで、海と川、山の繋がりを考えることができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>調べたいことを整理し、海辺の地域に住む人に質問をすることができる。(学びに向かう力・人間性等)</p>
18 ～ 19	<p>○ 海洋交流学习から学んだことをまとめ、課題設定2に繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺の地域を調査して分かったことを共有する。 ・これまでの学習をまとめる。 	<p>調べて分かったことをもとに話し合うことができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>これまでの学びをまとめ、自分たちの学びをふり返ることができる。(学びに向かう力・人間性等)</p>
20 ～ 21	<p>○ 只見町の未来を考えるために、海辺の地域と只見町の良さや課題の共通点や相異点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺の地域と只見町の良さや課題の共通点・相違点について話し合う。(環境問題・海洋の問題) 	<p>海辺の地域と只見町の良さや課題の共通点・相違点について話し合うことができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p>
22 ～ 36	<p>○ 調べたことや話し合ったことをもとに、グループごとに追究し、只見町の未来に向けての提案を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通・PR・災害対策・まちづくりの4つのグループごとに追究する。 ・只見町の未来に向けての提案を考える。 ・只見町の交通についての提案を話し合う。 ・只見町のPRについての提案を話し合う。 ・只見町の災害対策についての提案を話し合う。 ・只見町のまちづくりについての提案を話し合う。 ・提案を受けて、只見町の未来について話し合う。 <p>(本時35/46)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的なグループごとの提案をまとめる。 	<p>グループごとに追究することができる。</p> <p>(知識及び技能)</p> <p>グループごとに提案を考えることができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>グループごとの提案について話し合い、自分の考えを深めることができる。(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>提案を受けて、只見町の未来について話し合い、自分の考えを深めることができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p>
37 ～ 39	<p>○ 只見町の未来と環境問題や海洋の問題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・只見町の未来から地球環境や海洋の問題について考え、話し合う。 ・自分たちにできることを考え、話し合う。 	<p>地球環境や海洋の問題について、話し合うことができる。(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>自分たちにできることを話し合うことができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p>

40 ～ 46	<p>○ 只見町の未来について考えたことを提案し、具体的に行動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えた提案をポスター等にまとめる。 ・自分たちが考えた提案を、ポスター等をもとに伝える。 ・提案内容について具体的に行動する。 	<p>提案をポスター等にまとめることができる。 (思考力・判断力・表現力等)</p> <p>自分たちが考えた提案を他者に伝えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)</p> <p>提案内容について行動することができる。 (学びに向かう力・人間性等)</p>
---------------	--	---



2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 4 6 時間中の 3 5 時間目

2-2. 本時の目標

これまでの話し合いをもとに、只見町の未来について考えたことを伝え合ったり、話し合ったりする活動を通して、自分の考えを深めることができる。 (思考力・判断力・表現力等) <イノベーション力>

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 前時までの学習から本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 前時までの学習を振り返る。</p> <p>(2) めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>只見町が発展していくためには、何が大切か話し合おう。</p> </div> <p>2 只見町が発展するためには何が大切かについての自分の考えをまとめる。</p> <p>3 少人数で話し合う。</p> <p>4 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・只見と言えばやっぱり「自然」。自然を生かしたまちづくりが大切だと思う ・ぼくはやっぱり道路やお店を作って、便利な生活がしたいな。 ・自然を壊してまで、道路やお店を作るのは、持続可能な只見町としてはふさわしくないと思う。 ・やっぱり自然を生かした施設を作るのがいいと思う。 <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) ワークシートに話し合いを終えての自分の考えや新たな気づきを記入する。</p> <p>(2) 発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに話し合ってきた提案を振り返ることで、本時の話し合いの見通しをもつ。 ○ 自分の考えを書く際、これまでのワークシートや学習の足跡の掲示物を参考にすることで、根拠をもって自分の思いを話せるようにする。 ○ 少人数で交流することで、自分の考えに自信をもったり、より新たな気づきに目を向けたりさせる。 ○ どうしてそう考えるのか教師が問い返すことで、子供の背景にある伝えきれない思いや願いを表出できるようにする。 ○ 友達の考えと繋げて話をさせることで、友達の考えの良さや新たな視点に気付かせ、よりよい提案を考えることができるようにする。 ○ 話し合いが停滞した場合、少人数による交流を再度させ、新たな気づきを促すようにする。 ○ グループごとの視点 (交通, PR, 災害対策, まちづくり) について考えさせることで、話し合いを活性化させる。 ○ 友達と交流して新たに気付いたことを書かせ、発表させることで、本時の学びについての自覚化を促す。 ◇ 只見町の未来について考えたことを伝え合ったり、話し合ったりする活動を通して、自分の考えを深めることができたか。 (児童の発言, 振り返りの記述)

3. 今回の活動の自己評価

- 前時までの話し合いの共通点（開発をしていくのか自然を保護していくのか）を確認することで、スムーズに本時のめあてにつなげることができた。
- 子供たち自身で話をつなげ、考えを広げていくことができていた。
- 子供たちが自分の思いや考えを積極的に伝え合うことができていた。
- 二項対立となるような論点を設定することで、子供たちが活発に自分の意見を言うことができていた。

4. 今後の課題

- 話し合いの論点がずれそうなときに、教師の軌道修正が必要である。
- 視点を明確にし、教師が子供に問い返しをしたり、つつこんだりすることで、もっと深い考えに導く。
- 子供たちの話し合いは活発だったが、視点からはずれている場面があった。教師の介入が必要。
- 自分の考えに根拠をもって言えるようになると、もっと説得力が増していく。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本実践の学習・調査対象である「只見町」は、人口減少の課題があり、町を発展させていくことが急務となっている。しかし同時に「ユネスコエコパーク」にも認定させており、自然が豊かなで、保全をしていかなければならない地域でもある。つまり「開発と自然保護」の葛藤を抱えている町である。その点に焦点を当て、子供たちにも問題解決をさせていくことが重要である。

また子供たちの思いだけでなく、保護者の思いもアンケートなどで事前に知っておくことで、根拠をもった話し合いをすることができると考える。

